

MINAMIHARA JURI

追い続ければ
頑張れば
夢は叶う
JURI



南原 朱里

空手世界女王、
20歳

特集 燃ゆる原石たち#5



写真右／全世界選手権大会で優勝が決定した瞬間
 写真中／念願の表彰台で笑顔の南原さん
 写真左／両親と緑師範(左)と喜びを分かち合った

世界チャンピオンは、
自分と家族の夢だった

昨年11月9、10日に東京で開催された第12回全世界空手道選手権大会。4年に1度、新極真会が主催する無差別級トーナメントで、世界各国から43人の女子選手が参加した。南原さんは身長154センチメートル、体重54キログラムと海外選手と比べて小柄ながらも5試合を勝ち抜いて見事に初優勝。しかし、順調に勝ち進んだわけではなく、途中で足をケガし、歩くこともできない状態だったという。

全世界選手権大会の初日は、本来の動きが全然できていませんでした。それを感じたのは、2戦目のエマ・マークウェル選手(イギリス)と戦ったときでした。自分の距離が保てなくて、再延長戦で何とか勝てた状況でした。

その試合で右足のふくらはぎをケガしてしまい、試合後は歩けないほどでした。重心をかけるだけでも痛くて。そんなときに支えてくれたのが、周りの人たちでした。緑師範(新極真会代表)や他の先生たちから電話をもらい「朱里は気持ちが強いから大丈夫」「心が体を動かすか

ら頑張れ」と応援していただきました。それで自信が付き、うまく気持ちを切り替えることができました。足のケガも、トレーナーさんによるケアのおかげで、少しは歩けるようになっていました。

そして2日目、試合を重ねるたびに自分本来の動きを取り戻していききました。足の痛みはありませんが「絶対に勝つ、絶対に勝つぞ」と自分自身を奮い立たせ、ケガで気持ちがマイナスになることはなかったです。

決勝戦の相手は、インガ・ミクスタイテ選手(リトアニア)でした。全世界選手権に4大会連続出場している選手ですが、最初から全力を出し、得意のパンチのラッシュで押し切りました。そして、5-0の判定勝ちで優勝。4年前、16歳で挑戦した同大会では準優勝だったので、絶対に優勝したいと思っていました。

世界チャンピオンになることは、小学生の頃からの夢であり、家族の夢でした。これまで様々な大会で優勝しても、お父さんから1度も褒められたことがなかったんです。でも、全世界選手権で優勝した後、はじめて「おめでとう」とお父さんに声をかけてもらいました。

PROFILE

空手家(新極真会所属)。直方市在住、平成11年生まれ。直方東小2年から父が営む空手道場・龍士會(りゅうしかい)に入門し、直方二中3年の頃に新極真会へ移籍。国内外の各種大会で入賞する他、新極真会4大会を制覇し、グランドスラムを達成。現在は、指導者として折尾道場、中間道場、徳力道場の3道場にて後進の育成にも尽力している。



2年前、姉弟W受賞で来庁。



4年前、全世界選手権大会の準優勝で表敬訪問した南原さん(当時16歳)。「次こそは優勝」と誓っていた。